

平成30年度国内希少野生動植物種の選定に関する検討会における

各候補種に対する意見概要

1. 日時：平成30年9月18日（火） 13:30～16:30

2. 出席者

＜検討委員＞（五十音順 敬称略）

- 石井 信夫 東京女子大学 現代教養学部 教授
石井 実 大阪府立大学 理事・副学長
尾崎 清明 公益財団法人山階鳥類研究所 副所長
角野 康郎 神戸大学 名誉教授
白山 義久 国立研究開発法人海洋研究開発機構 特任参事 【ご欠席】
成瀬 貫 琉球大学 熱帯生物圏研究センター 准教授 【ご欠席】
藤井 伸二 人間環境大学 人間環境学部 准教授
細谷 和海 近畿大学 名誉教授
松井 正文 京都大学 名誉教授
矢原 徹一 九州大学大学院 理学研究院 教授 【ご欠席】
横田 昌嗣 琉球大学 理学部 教授
米倉 浩司 東北大学大学院生命科学研究科 助教

＜事務局＞

- 堀上 勝 環境省 自然環境局 野生生物課 課長
番匠 克二 環境省 自然環境局 野生生物課 希少種保全推進室 室長
奥田 青州 環境省 自然環境局 野生生物課 希少種保全推進室 室長補佐
杉山 昇司 環境省 自然環境局 野生生物課 希少種保全推進室
指定検討第二係長
田中 里奈 環境省 自然環境局 野生生物課 希少種保全推進室
指定検討第一係
一般財団法人 自然環境研究センター

3. 各候補種に対する意見概要

44種について検討したが、分類学的な問題や保全管理のあり方に課題がある等の理由で選定すべきでないという意見が出された種があった。今回科学委員会に提示した候補種に係る意見は次のとおり。

【哺乳類】

- ・エラブオオコウモリ、リュウキュウテングコウモリ、ヤンバルホオヒゲコウモリについて、指定は妥当である。ただし、他の候補種もある中で、これらの種を優先して指定した理由や優先順位の基準を明確にしたほうが良いだろう。

【鳥類】

- ・クロコシジロウミツバメ、オガサワラヒメミズナギドリについて、指定は妥当である。
- ・シマハヤブサ、ウスアカヒゲの指定解除については、特に異存はない。

【爬虫・両生類】

- ・ケラマトカゲモドキ、コガタハナサキガエル、トサシミズサンショウウオの指定は妥当である。なお、地元の団体が保全活動をしている種について、国が指定することで保全がされなくなってしまうことが懸念されるため、そこは調整いただきたい。

【魚類】

- ・ハカタスジシマドジョウ、タンゴスジシマドジョウ、コシノハゼとも指定は妥当である。ただし、他の候補種もある中で、これらの種を優先して指定した理由を整理して説明すべきである。

【昆虫類】

- ・ヒサマツサイカブト、ハネナガチョウトンボとも指定は妥当である。いずれの種も危機的状況にあるため保全対策が必要である。

【甲殻類】（委員ご欠席のため、事務局による事前意見の読み上げ）

- ・オガサワラヌマエビ、オガサワラベニシオマネキとも指定は妥当である。いずれの種も生息地の調査や生息環境の保全、域外保全の検討が必要である。

【維管束植物】

- ・タイワンアマクサシダについては、人工増殖が可能かはわからない。自生地は立ち入りが難しいところで、原因は不明であるが、20年前と比べて相当個体数が減っている。指定は妥当である。
- ・トクノシマテンナンショウについては、盗掘によって個体数が少なくなっており、非常に危ない。指定は妥当である。
- ・クロボウモドキ及びタシロマメについては、採取は無いが、自生地がかなり開

発されており、指定によって自生地の開発が抑制される可能性がある。指定は妥当である。

- ・イネガヤについては、減少要因が人の踏みつけや除草剤の散布であり、種の保存法で指定するとしても、有効な対策がとれるか検討が必要。また、自生地には大きく分けて2集団あるが、1集団は踏みつけや除草剤散布により減少しており、もう1集団は個体数が非常に少ない。
→対策について、指定後に、草刈りや除草剤使用の際の自生地への配慮について、現地事務所を通じてお願いしたいと考えている。(環境省)
- ・ヒジハリノキについては、開発のおそれがあるため、指定は妥当である。
- ・クロブシヒョウタンボク及びウゼンベニバナヒョウタンボクについては、いずれも風穴地の限られた場所にあり、指定は妥当である。特にウゼンベニバナヒョウタンボクは極端に個体数が少なく、近縁種とは生態的にも形態上からも明らかに異なっている。
- ・タコガタサギソウについては、和名や学名などに混乱はあるが、実体ははっきりしていることから、その点をきっちり説明した上で指定は妥当である。
- ・エダウチタヌキマメについては、個体数は非常に少ない。開発抑制の効果を見込んで、指定は妥当である。
- ・ケナシハテルマカズラについては、近縁種は点々とあるが、今まで混生している自生地は見たことがなく、形態的にも明瞭に区別ができる。本種は、自生地が1箇所のみで、希少な種であることに変わりはなく、指定は妥当である。
- ・ヨナクニイソノギクについては、花がきれいであり、採取されるおそれがある。自生地が限られており、なおかつ台風などで崖崩れが起きる可能性もあるため、指定は妥当である。
- ・キレハオオクボシダについては、それほど急いで指定する必要は無いと思うが、指定自体には問題はない。
- ・カラフトグワイ、クモマキンポウゲ、ヤクシマフウロ、カイコバイモ、ホザキツキヌキソウ、ヒイラギデンダ、ヒュウガホシクサ、ムラサキカラマツについては、指定は妥当である。

以上